

魅力屋 (コード 5891)

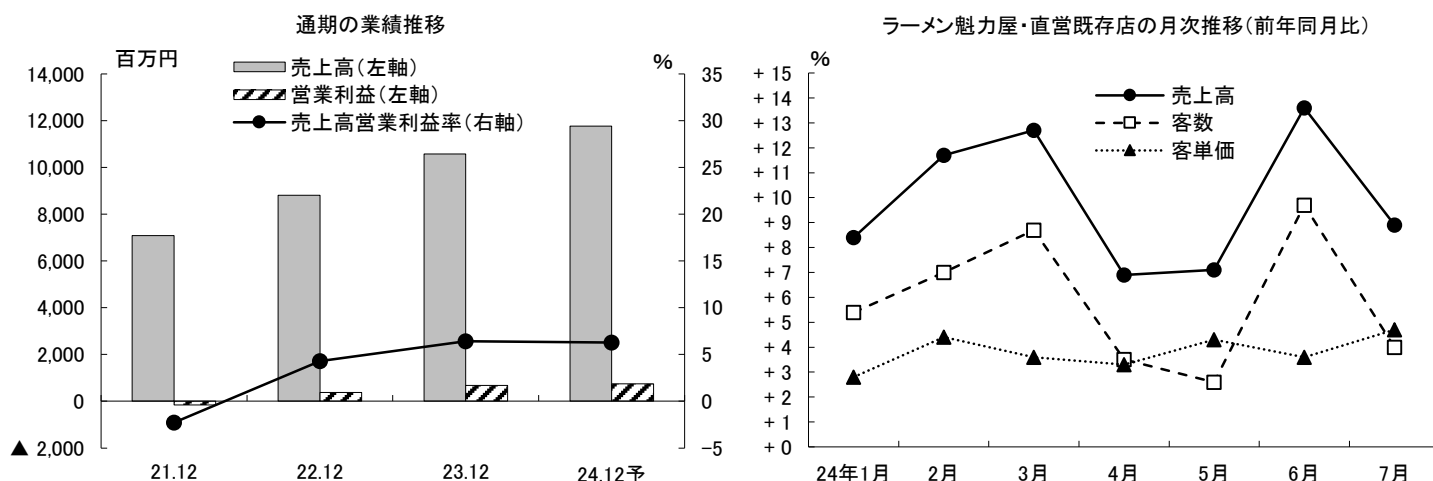
◆各決算期中の中間期業績推移(単体)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
23.12	5,028	372	—	—	—	—	—	—
24.12	5,866	417	45.2	0.0	505	▲294	▲188	3,607

◆通期業績推移(単体) (24.12 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
21.12	7,085	▲161	54.7	0.0	482	▲542	63	1,576
22.12	8,815	380	73.2	0.0	1,048	▲463	▲80	2,081
23.12	10,583	679	89.0	15.0	622	▲359	1,241	3,585
24.12予	11,770	741	82.6	16.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



24年12月期中間期の業績概況…24年12月期の中間期(24年1~6月)は、新型コロナウイルス感染症の「5類移行」に伴う経済活動正常化に伴い、既存店売上が前年比10.1%増となったことに加え、前期の第2四半期(23年4~6月)以降の新規出店などにより、売上高は前年比で約17%、営業利益は約12%それぞれ増加した。

当期の売上高は58億6,600万円(前年同期比16.7%増)、営業利益は4億1,700万円(同12.1%増)、経常利益は4億3,000万円(同9.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億4,800万円(同0.7%減)となった。売上高の伸び率に対して営業利益の伸び率が小さく、売上高営業利益率も7.1%(前年同期は7.4%)に低下しているが、これは販管費において、前期の第4四半期(23年10~12月)に実施したIPOでの公募増資に伴う租税公課の増加(前期比約3,700万円増)による(この要因を除くと売上高営業利益率は7.7%)。

主力事業であるラーメン魅力屋の既存店において、今期に入ってから売上高、客数及び客単価の月次動向では、客単価はおおむね堅調な伸びを見せている。客数については3月までは月を追うごとに伸び率が拡大。4月と5月は伸び率が落ち着いたものの、創業月で月初に感謝祭を実施した6月は来店客全員へのラーメン無料券配布が月終わりまでの駆け込み需要を呼び込んだこともあって再び伸び率が上昇した(なお、下半期に入って7月は客単価、客数とも堅調な伸びとなり、8月についても速報ベースで客数は前年同月比7.3%増、売上高は10.0%増と好調が続いている)。

この中間期における新規出店は8店(うち、直営4店、FC加盟店等4店)、閉店は1店(FC

加盟店等1店)で、当期末のラーメン魅力屋は142店(うち直営107店、FC加盟店等35店)、中食事業等10店の合計152店となり、前期末から7店増となった。

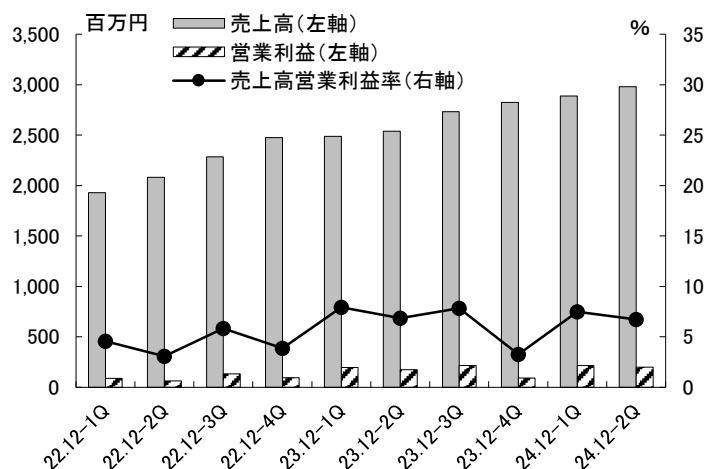
また、22年12月期から今期第2四半期(24年4~6月)までの業績を四半期(3カ月)ごとにみると、売上高においては前年同期比及び直前四半期比ともに増加を継続。営業利益については、凹凸はあるものの前年同期比では前期の第3四半期(23年7~9月)までは増益を続け、売上高営業利益率についてもほぼ右肩上がりで向上してきた。前期の第4四半期については、株式上場費用に加え、店舗オペレーションの改革プロジェクトによる改装費用(10店でテスト的に厨房を改装)が発生したことなどから、前年同期比で約3%の減益となったが、今期に入って第1四半期(24年1~3月)には売上高が前年同期比16.0%増、営業利益が9.4%増に、第2四半期についても売上高は17.3%増、営業利益は15.1%増と好調が続いている。

キャッシュ・フロー(以下、CF)の状況について、当期末現在の現金及び現金同等物の残高は36億700万円(23年12月期末比0.6%増)となった。営業活動によるCFは、税金等調整前当期純利益4億3,000万円、減価償却費1億1,400万円、未払金の増加額1億8,700万円、未払費用の減少額1億5,800万円、法人税等の支払額1億3,800万円などにより、5億500万円の収入となった。投資活動によるCFでは、有形固定資産の取得による支出2億9,100万円などにより、2億9,400万円の支出に。財務活動によるCFでは、長期借入金の返済による支出1億7,500万円、短期借入金の純増額5,000万円、配当金の支払額8,200万円などにより、1億8,800万円の支出となった。

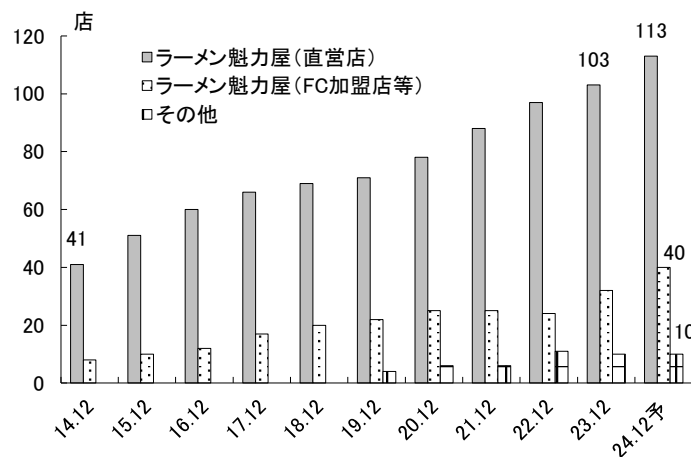
24年12月期の業績見通し…24年12月期の通期業績については、売上高117億7,000万円(前期比11.2%増)、営業利益7億4,100万円(同9.1%増)、経常利益7億4,700万円(同9.5%増)、当期純利益4億5,400万円(同16.3%増)の見通しで、24年2月14日付けの会社側発表値から変更されていない。1株当たりの年間配当金は16円(前期実績比1円増)の予定。

今期の既存店売上は前期比4%増を見込んでおり、今期中に18店(直営店10店、FC加盟店等8店)の新規出店を計画。今期末の店舗数は合計で163店となる見込み。

四半期(Q)ごとの業績推移



期末の店舗数の推移



本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなされますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。